

国際協力特別賞

世界を幸せにする第一歩

つくば市立手代木中学校 2年

今熊 樹

僕がジンウと初めて会ったとき、最初に感じたのは「大きくて少し怖いな」ということだった。果たして日本語の通じない彼と友達になれるか不安になった。その後の対面式。僕が練習してきた韓国語と英語のあいさつを口にすると、ジンウも笑って日本語と英語で返してくれた。僕は少し緊張が解け、抱いていた怖そうという印象がなくなった。それが、僕が言葉の壁を乗り越えた初めての経験だ。

僕は今年の夏、初めて日本から出て韓国へ行き、三泊四日で現地の中学生と交流してきた。

初日は、宿泊施設に韓国の中学生と一緒に泊まった。部屋で荷物を整理し一息ついたところで、ジンウ達が、ゲームをしよう、と持ちかけてきた。承諾してどんなゲームか尋ねたところ、韓国の中学生の一人が、目を閉じてふらふらし始めた。韓国語で何か言っているが全くわからない。すると別の子が携帯電話の翻訳アプリを起動し、「オ…ニ？」と言った。「メヲトジル、オニ。」と言いながら、身振り手振りを交えて伝えてくれ、やっとわかった。どうやらそのゲームは、鬼が目を閉じながら、声などを頼りに逃げる人を捕まえる、鬼ごっこのようなものらしかった。実際にやったが、とても楽しかった。ジンウ達が一生懸命、身振り手振り、英語、翻訳アプリの日本語を駆使して伝えてくれたおかげで、楽しい時間を共有することができた。

二日目、三日目はジンウの家でホームステイをした。家族の方は日本語の書かれたメモを用意してくれ、それを使ったり本や翻訳アプリを使ったりしながら、「おいしいですか?」「おやすみ」などと話してくれた。僕も持ってきた韓国語の本を使いながら、英語を交えて話をした。自分の伝えたいことが伝わった喜びは、今でも忘れられない。一番嬉しかったのは、別れ際もらった手紙に日本語で「いつまでも友達でいよう」と書いてあったことである。韓国へ来て良かったと改めて感じた。

言葉の壁を乗り越えてたくさんコミュニケーションをとった今回の交流は、とても貴重な体験だった。ジンウとは、帰国後もメールでやり取りしている。来年は、ジンウが僕の家でホームステイに来る。それまでに、英語と韓国語の勉強を頑張って、来年たくさんコミュニケーションを取れるようにしたい。

世界の幸せのために僕達ができることは、外国人の友達を作ることだと考える。これは簡単で、誰でもできることだ。まずは、身近にいる外国人や、海外へ行ったときに会った人に、一言でもあいさつを試みよう。それが、世界を幸せにする第一歩になる。